(1)　第3號　杉並公民館報　昭和29年3月1日発行

館報 杉並

発行所　杉並公民館
高知県長岡郡大杉村
電話杉並1番
印刷所　太陽印刷社

嶺東村が実現？

町村合併の嶺北地区四箇村

第一回研究協議会開催さる

大杉、天坪、西豊永、東豊永の嶺東地区、四箇村では町村合併促進法実施に伴い之れが第一回研究協議会を去る二月一日午前十時三十分、大杉中央公民館に於て県側より山崎土長地方事務所長及県担当主事、地元側は嶺東四箇村長、村会議員等十数名列席し山崎所長、司会にて開催した。

定刻、秋山村長の開会の挨拶、山崎地方事務所長及び中内、県担当主事より県、郡内の合併進行状況、町村合併の方向竝に之れが、促進、具体化方法等について、それぞれ指示、説明が行なわれた。次いで協議に移り小笠原氏（元西豊永村長）より「先づ関係村の村長が如何なる考え方を持つて居るかを先に何つてから具体的な協議に入りたい之れが第一回研究協議会を去る二月一日午前十時三十分、大杉中央公民館に於て県側より山崎土長地方事務所長及県担当主事、地元側は嶺東四箇村長、村会議員等十数名列席し山崎所長、司会にて開催した。

定刻、秋山村長の開会の挨拶、山崎地方事務所長及び中内、県担当主事より県、郡内の合併進行状況、町村合併の方向竝に之れが、促進、具体化方法等について、それぞれ指示、説明が行なわれた。次いで協議に移り小笠原氏（元西豊永村長）より「先づ関係村の村長が如何なる考え方を持つて居るかを先に何つてから具体的な協議に入りたい」旨の動議があつて各村長より次の通り構想の発表があつた。

大杉、秋山村長は

「現状維持で宜いと思うが合併の主旨を体して云えば嶺北全町村を一括した嶺北町の構想で行きたい。実現不可能なれば可能範囲で併合を行なわなければ、ならない」

天坪、北村村長は

「天坪に予定されているダムの関係で之れが実現の暁は約四百戸程度減り村の現状、将来を考えた場合、山田町或は大杉村との合併が、手近に考えられるが、嶺東四箇村の合併を希望する」

東豊永、高木村長は

「実行可能な西豊永村との合併を望みたい」

西豊永都築村長は

「東西、豊永で一村、大杉、天坪で一村をつくつて見ても財政上から考えても大した利益はない立地、経済上の条件を等しくする嶺東四箇村の併合が実現可能性もあり、一番望ましい」この構想に基づいて質疑、意見の交換が行なわれた結果、満場一致で嶺東地区四箇村合併を第一案として議決し之れに伴う次の事項を決議し今後嶺東村実現に具体化方策の研究を行う事となり午後三時閉会した。

決議事項

一、嶺東地区四箇村合併を行う研究会を結成する

二、研究会委員は各村より五名を選出し、合併資料調製の為、専門委員二名（なる可く助役をあてる）を委嘱する

三、次回、会合は西豊永村役場に於て開催

四、各村の昭和廿七年度、決算書を次回会合に持ちよる

五、合併は昭和廿九年度に実現を期するを目標とし村民の意見聴取及周知徹底を図る

大杉村専門委員決る

二月七日村議会に於て本村合併専門委員は次の通り決定した。

村議会議長　小笠原清浩
村役場助役　宮内　正章

次回本紙にて村内有志者の意見発表

町村合併について村当局者の所見及村内有志者の紙上座談会を開催予定

山地農業経営に光明！

本村初の葉たばこ収納終る

総収納一七七万一三九〇円

部落では桧生が第一位

有利換金作物として常日頃よりその導入が重視されていた葉タバコ耕作は一昨年その許可もあり村下三四戸総面積にして四町三反余が、周囲の疑惑と若干の反撥を感じ乍らも昨年二月大きな希望をもつて初耕作に着手した。しかし不なれのせいか指導のせいか、全村のほとんどが育苗に失敗しその大半の苗を南部の耕作者より移入するなど当初の苦労はあつたが、その後は割合順調に成育し初耕作でしかも、新技術の習得、乾燥場の建築など、多事多忙になやまされながらも約六ケ月余の苦労もみのり昨年十二月に調理の後本年一月十日十一日に、胸とさろかせながら収納した。

初耕作の成績としては悲観的なものでなく全面積四町三反余で収納代金一七七万一千三百九十円、反当平均四万一千百六十六円と県下一三〇ケ町村の内第九四番目の成績であり、これを嶺北でみると反当五万五千五百五十二円の森村、同じく反当四万二千六百三十八円の本山町に次いで嶺北で第三番目の成績である。

嶺北最高の森村は、本村と同じく初耕作でありながらもその成績は県下二六番目と云う好成績ぶりである大杉に次いでは一一一番目の西豊永村があり天坪村は一三〇番目となつている。

又これを村内でみる時個人反当収入最高は、八万三千八百三十九円（嶺北一位）最底は二万六千二百四円であり部落別では桧生がトツプで続いて大王下、磯谷などが比較的良好とされている。

台風と長雨に祟されしかも技術的不なれもあつて意外の不作をみた所もあるが、公社の方で反当四万二千円に満たない者に対しては、災害保障がなされることになつておるので耕作者は、めぐまれていると云えよう。

本年度は昨年よりも更に一町六反も増加され耕作者も三六名になり、すでに播種は二月二十日に終つている。

まだ養蚕などとの関係もあるが、有利換金作物として、山地農業経営に光明を見出し今後大きな希望がかけられている

引換洩れはないか

小額通貨は通用が禁止されている

杉並郵便局長

小額通貨は昭和二十八年十二月卅一日限り通用が禁止されています

之は法律第六十号小額通貨の整理及び支払金の端数計算に関する法律によるもので引換は日本銀行と郵政官署で行うことになつて居り昭和廿九年六月卅日までに小額通貨以外の通貨と引換えします。

引換の対照となる小額通貨は概ね次の五九種類で詳細は当局係員に御尋ね下さい

1、小額補助貨幣五四種（一円以下の小額硬貨は全て）

2、小額日本銀行券四種（十銭紙幣一はと、忠霊塔図柄、五銭紙幣、梅、楠木正成図柄のもの）

3、小額紙幣一種（五十銭政府紙幣ー板垣退助図柄のもの）

なほ一円未満の額面仏格を有する貨幣、紙幣、及び日本銀行券は当分の間発行されない事になつています

父兄へ御知らせ

「新入学児童の教科書は無償給与停止さる」

教育委員会事務局本年四月より小学校へ入学する児童の教科書の内、国語及び算数は、昭和二十九年度については法律にもとづき無償給与を中止する旨連絡がありました、従つて他の教科書同様に書店で取扱います。

青年の摸擬縣会

嶺北聯合青年団では本月十三、十四日午前十時より大杉小学校に於て模擬県会を開催する事になつているので青年はもとより一般の傍聴を望んでいる

生活刷新運動 二時を守る会

館長　秋山正隆

貴い人生を空費することは実に考えねばならん事と思うこの様な悪い習慣は一日も早く精算し生活改善の第一歩を築いてわどうでしようそれには一人でも多く本会に入会せられたい、

入会希望者は公民館平尾主事迄御申込になればバツジも実費でお頒けいたします

当公民館では生活改善の第一歩として時間励行を年間目標と定めその一法として「時を守る会」を作り会員は「定のバツジを付け会員の標識としている。

会員としては各種会合の時間を守ること若し止を得ざる事故の為欠席遅参の場合は主催者へ予め通知すること各種会合には必ず開会閉会の時刻を予告すること年間を通じ時間励行の成績優秀者は表彰する事等を定めている

時間不励行の弊害は少くない折角予定した計画や日程が遂行出来ず又二三時間で済む会が半日も費し半日で済む会合に一日を費し従つて外部でせなくともよい昼食をしたり夕方閉会頃には空腹を感じ…ばいやらないと腹の虫が承知しない「一寸簡単」にとのはじまりが二次会三次会…かかる会合が度重なると家族からも異議申立が出る従つて会えの出席も次第に悪くなるこれ等は特別組でお行儀の悪い方だが一般の者としても

連続と相関

大杉出身者リレー　次回は「鈴木利茂」氏へ

高知県造船専務株式会社　森下歳市

我々は時間と空間との二つらぬ。政界も、自治体の運営も、教育も、社会風潮も、つの世界に住んでいる。一近時益々此の辺で徹底して連続の関係であり他は相関関係となる。人の人たる本義はこの基本を自覚して両者の調和に成果をあげる事にある。然してそれは容易のことではない。由来東洋の文化は連続の面が強調せられ、西洋文明は相関の面が異常に発達している。

而していづれも一方に偏して調和が十分でないとこころに今日の世界の欠陥があらわれて来る。一分も一秒も休止することなく進歩し発展する人間世界は時間の意識を持つ人類のみの特質で連続の自覚が根底をなすものである。

小野道風は柳の枝にとびつく蛙を見て六十の手習を始めて有名な書家となつたが科学者に言わせると蛙は記憶は全然ないので前に失敗したことわ全然頭にない。只何辺でも本能的に飛びついておるだけで辛棒強いわけでも何でもないとのことだ。

猫は湯気の立つものには舌を出さないし、犬は三年恩を知ると言はれ芸を教え込むことが出来るのは若干の記憶があるからである。人間のあらゆる進歩はこの記憶の伸張から判断が生れ創造が行われる様になつたからに外ならない。終戦後我国に急速な勢で自由主義民主主義が拡延もられたことは誠にうれしいことだが只西洋文明を其のまゝに移して「連続の道の貴重さ」を忘却して人の人たる本質を歪曲するゆきすぎた傾向はこのまゝ見のがしてはならぬ。

産業、経済、文化の進歩がおくれ世界人としての生活の訓練が不十分であることは残念には違いないが其の反面に連続のよさが温存されておる事実はうれしいことである。只それが自然に残つておるだけでは無意味である。之を把持する自覚が生れてこの人としての根本第一義を根底において新しい進歩発展をきづきあげる様不断の努力がつみ重ねられる場合其処に新しい道が開拓せられるのである「新しい自由は土佐の山間から」それは私達の希望である。封建性、保守的因習は打破しなくてはならぬが「連続の貴重さ」人間の本質から生れる道の自覚は更に必要である。新しい村つくりは其処から出発しなくてはならぬ。

連続と相関との調和を正しい姿に近づける根本はやはり教育にある。新しい村つくりをなしとげ得る原動力は一にかゝつて青年にある。青年の志向と実践こそ村の運命を定めるものである。否私は村だけでなく私の郷村の教育と青年達の行動とが連続の尊さをしつかりと自覚した上で相関の徳性を涵養して新しい村のあり方を理想的に築き上げる地味な努力をつづけてくれた場合には其の成果がやがて嶺北地方に及び土佐を動かし日本の方向に大きな基盤をきづきあげ得ることを信じ期待している。私の郷村への希望と期待とは無理であろうか。大杉に生れ大杉にはぐくまれた私が郷村の為直接何等御役にたつていない事は反省して深く御詫びしながら。

次号筆者は高知港湾社長鈴木利茂氏にリレーします。

懐しの、あの山、あの川 ふる里に想う

運営審議会開催

穴内公民館

穴内公民館では去る二月二十三日午後一時より運営審議会を開催、同館敷地料の件、清掃の為の臨時夫の使用、会計監査及その報告、階下一部使用許可の件などにつき協議、同四時半閉会した。

嶺東四箇村合併試案（各村の現状）

●附記…金額は全て千円単位である

摘要 / 村名	面積（平方粁）	25、10、1 国勢調査 世帯数	25、10、1 国勢調査 人口	27年度末 財産	28年度当初 予算	27年度 普通交付金	28.5.31 村税収入額	28.5.31 村税収入歩合	27年度起債額	議会費	役場費	歳出総額	町村税	国、県、郡支出金	歳入総額	平衡交付金	十%費目 会場費	十%費目 役費	十%費目 出張費	十%費目 歳出総額	当り税% 町税	当り税% 村税	人口一人当り 歳出総額	人口一人当り 歳入総額	付県金交国出衡平金支 歳入総額	職員一人当り人口
大杉	133、88	1、474	7、033	12、282	10、837	5、019	6、240	77、59		385、332	3、362、500	12、656、071	4、704、888	1、663、948	13、564、264	4、552	29、61	518	79、66	1、751	34、69				45、61	93
天坪	75、27	854	3、854	6、755	14、970	4、062	3、006	73、51	1、900	219、931	2、390、422	8、376、491	3、061、219	1、691、852	8、456、176	3、106	31、09	675	85、08	2、773	36、20				56、74	64
西豊永	58、30	1、203	6、165	21、281	19、727	5、983	4、276	81、15	5、408	510、527	3、033、748	12、980、183	2、962、920	2、836、175	15、073、252	4、982	27、3	580	119、6	2、127	19、7				51、9	82
東豊永	91、93	1、239	6、490	4、131	13、056	3、999	3、754	92、74	2、374	316、942	3、135、[illegible]	12、189、907	4、518、881	2、074、526	13、032、562	4、106	28、32	531	51、12	1、879	34、67				46、56	82
計		4、800	23、542							1、432、732	11、922、156					16、746										

大杉電話中継所

業務開始は四月一日
高知、杉間即時通話の早急実現を期待

本県の電話通話に畫期的至便をもたらす愛媛県豊浜―高知間の搬送ケーブル工事は工費二億千万円で十四対搬送ケーブル二条（七八粁）及び百十五対ケーブル一条（二十粁）を布設中で本月中に完成予定であるこのグーブル施設に伴う中継所は本村では川口年平に大杉電話中継所として建築費（土地附属建物を含む）一千三百五十五万円延建坪一八五坪が新築され目下機械設備（工費一、七六一万円）が行なはれて居り本月二十日頃に完成の見込で開通は四月一日からの予定である

高知へは即時通話！

ケーブル開通後、如何なる利益をもたらすかと云えば現施設と比較すると

回線名	現用回線	新回線数
高知大阪線	六	一二
〃 高松線	九	一二
〃 徳島線	三	六
〃 丸亀線	一	一
〃 岡山線	一	一
〃 松山線	四	八
〃 普通寺線	一	一
〃 池田線	一	一
放送専用線	三	三
電信専用線	一二	一二
新聞社専用	六	六
打合線	一	一

と回線が増し例えば大阪、東京方面え電話するとせば現在、昼間では特急でも先づ半日一日がかりであるが完成後はせいぜい一二時間以内に通話できる見込で、しかも感度が明瞭となり線路障碍で不通となる事が、極めて少くなる等の利点があり又此の施設に伴つて「現用回線は」当嶺北地方の町村長、郵便局長等、ローカル線として存置方陳情中であつたが、このほど四国電気通信局で第一次案として当方面関係では高知豊永間一回線〃豊永間一回線を新設し高知杉間は現用二回線を存置する事に決定之によつて現在東、西豊永局は高知、杉線を使用して通話しているため高知方面えの通話は料金の高い特急通話でも一一二時間を要しているのが改善後に於ては各局とも普通々話でも先づ即時に通話できる状態になる

なお中継所の役目について簡単に要点を説明する。

中継所とは

距離の長い区間に多数の回線を作るためには裸線よりケーブルが有利である（多数の線が鉛管に収められているのをケーブルと云う）大杉を通つているのは線が十四対入つている搬送ケーブルで、このケーブルに周波数の異なる搬送電流を使用することによつて一ついの線路で多数の通話路を作ることができ現在は一線路で六通話路のものを行つているが、二十四通話路まで使うこともできる線路が長くなると電流が減衰するので五〇粁又は二五粁の間隔で中継所を置いて減衰して来た電流を増幅し正常な電流を保たし次の中継所へ流す之が中継所の仕事である

本村初めての上水道

杉櫻町上水道完成

杉町内は従来、水利に恵まれず万一火災等の場合にはバケツリレーするより外に方法がないので町内全戸に水道施設をすべく度々鳩首協議をしたが大きな工費を要するので意見がまとまらず何時の間にか立消えとなつていた処、町内の川本栄ざん橋本晴喜さん永松亀喜さん等が相計り発起者となつて杉桜町組水道を計画し石原賢成さん達、十七戸の賛成を得て昨年十一月廿九月、工費二八万六千円（一戸当り平均一万六千円強）を以つて着工し十二月卅日予定通りの工事を終へ本村初めての水道設備ができた

現在この水道は二十三戸に給水され従来の水利不便を一挙に解消し炊事はもとより、おせんだくも充分、火災に際してはポンプ代用になるので奥様方は大よろこびであるなお管理役員は次の通りである。

組合長　川本　栄
会　計　並川長水
事務所係員の村財務監査

一月十五日　大杉中学校で成年式
一月十九日　村造林特別委員会（村有林造成等協議）
一月二十九日　村教育委員会（教員異動等
二月一日　中央公民館で

12月のメモ

（書）高知

嶺東地区（大杉、天坪、東、西豊永）町村合併協議会
二月五日　村議会（町村合併専門委員選任等）
二月十、十一日　地方相互銀行の出張所誘致協議会
二月十八、九日　第四回農業祭
二月二十六日　穴内駅連絡道路開設促進委員会

◎訂正通報

本紙新年号、広告のうち長野呉服店の電話番号二八番とあるも「三八番」正当につき訂正致します

鮎！今年は豊漁を期待

放流は委員会で行なう
組合費は早急に納付を
嶺北漁業組合

本組合では去る二月廿一日本山町に於て本年度最終の理事会を開催した。現役員は二月末で任期満了となる関係で吉野川下流の盛況、放流事業に種々支障を来たすので放流委員会を新たに次の通り設置し増植事業に万全を期し組合員の要請に沿う事になつた。

なお鮎遡上状況は確実には四月でなければ判らないが昨年来、組合は下流に於ける鮎不法漁獲防止の為、徳島県漁協組と協議を重ね取締、監視に成果を挙げ又本県川村知事より直接徳島県知事に取締方要望がなされる等凡ゆる面より手段を講じているので自然的条件に変化なき限り本年は豊鮎が期待されている

一、放流委員会設置
委員長　飯田正福
副委員長　森下参事
委　員　各村一名宛

二、放流委員会の結果次の通り計畫さる

1、鮎放流第一次計画
▼第一回は天坪三貫、大杉五貫、豊永七貫
▼第二回は本山五貫、田井、森、地蔵寺、吉野は各二貫五百匁宛を三月上中旬に放流

2、三月上旬に県と交渉の上第二次放流を計画

3、ウナギの放流
三月――五月迄に五十貫――百貫を放流する

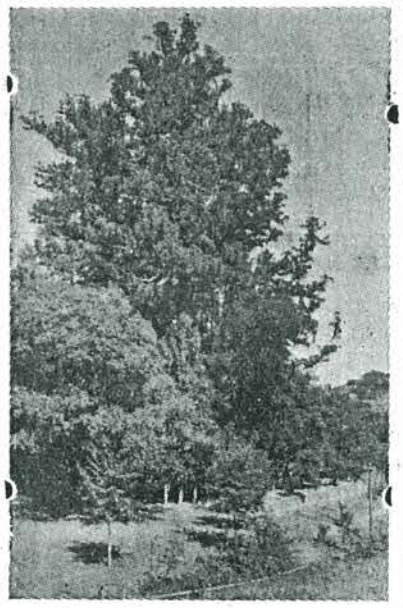
なお大杉村は二七年に六三六〇円、二八年は全額組合費未納であるが組合の運営上、又将来ダム建設の際の補償金の関係もあるので至急納付願います

村内機関人事異動

●一月一日
中村大王駐在員更送、新　松村　正敬

●二月二十日
日浦駐在員更送、新　丁野　萬満

●二月二十五日
津家駐在員更送、新　新豊　茂晴



千早ふる神代の昔のしのばれて
雲井に仰ぐ杉の大木
月桂

立川へのバス乗入れは未定

地元民に熟意がない

立川県道への県交通バスは日刊新聞は乗入れ決定の如く報じていたが県交通田井営業所、本山所長は之について次の様に語った

「試験的に数回乗入れしたが之れが実現には退避所を少くとも五――六箇所、作らなければ認可にならない。現在は未だ計畫の域を出て居らない。第一地元民に余り熱がなく乗入れするか、どうか未定であつて正式に許可申請もしてない」

演芸会開かる

磯谷青年団

磯谷青年団では、去る二月八日同部落神祭に、森末永氏宅に於て部落民慰安、団費捻出、勉強といづれも、若人達の真験なハリキリぶりを示した

同日は、同部落民はもとより他部落からも多数観客がつめかけ上西長幸君を団長とする同青年団員のハリキツタ出演にいづれも絶讃を博し約三時間熱演の後同六時幕が降りた。

大杉小、中学校、合同学芸会

大杉小、中学校の合同学芸会は去る二月十一日午前九時より小校講堂で開催された。愛児の舞台姿を見んものと定刻には、すでに満員状態で、之れ等父兄の拍手に迎えられ、先生方の苦心になる斬新な舞台装置の中でおかつぱの小さい御嬢ちやんや坊ちやん中学生に至る迄、日頃の熱心な、おけいこの成果を遺憾なく発揮、なかんづく中学校の山下久寿君、永野愛子さん主だの劇「夕鶴」はその名作と相まつて父兄観衆に多大の感銘を与え午後四時、閉会した。

豆ニュース

生活の合理化

昨年末、某事務所の忘年会「今年は酒なし」でと、菓を食つては茶ガブ〳〵、おしまいにウドン一杯。面々バンドゆるめながら「生活合理化とは、ゲニ腹の張るもんじやネヤ」

厄除は御揃いで

二月十日、大王下稲田さんかたでは、竹治さんの還暦（六十一）長男民司さん四十二、その妻慶子さん三十三、四女茂美さんも三十三、孫進君の誕生（満一才）と、歳祝の五ツ重ね。聞きこんだ気の早いのが、「こりやたしかに酒宴ノ文化生活合理化の妙案ちや。ワシもこの手で」さてとくと考えて「こんなおめでたの条件は、ちよつと揃いかねますわ」

福の神、穴内に滞在？

第一話

去る一月某日、穴内学校前のH食堂で飲食中の和田のYさん、たま〳〵来あわせた穴内三区駐在員の秋山盛敬さんから、すすめられる儘に買つた県の産業宝くじ三十枚のうち七組の一七五六四一番が見事三等五万円に当選した。ところで、このくじはサービス良好とかで同店給仕婦の信子さんの腹中にあり、貰つた、あづけた、とか。いんげんそれはちがうとかでチともめたらしいが和田の三父大人の仲人で意気情合し仲よく二万五千円折半でチヨン！とはウラヤマシー

第二話

村内商店では旧歳末大売出の副引券引替を去る二月十八日一斉に行なつたこの中で穴内部落、小笠原英雄さんは高須、酒井商店で二等賞を穴内、岡本商店で一等賞を引きあて隣近所からエライ当つたもんじやネヤバチも当るかも知れんとナマグサを持込まれ披露宴に及んだが福の神が逃げんまに宝くじを買いたいと言つている。

今年は穴内の当り年、鶴と亀が舞い遊ぶメデタシ

木炭品評会

三月に開催

大杉村では来る三月二十日に、本村木炭事務所落成を兼ねて村内木炭品評会を開く同日は審査に県の林務課より来村、又大阪方面の木炭問屋筋からも来村、賞金も特等一千円以下五等まで盛沢山にあり、村及農協等は相当の力コブを入れており当日の活況が予想されている。

昭和廿九年度「巨杉」発行について

二十九年度における本紙の発行は次の様に計画致し居りますので御協力下さい

発行月日	頁数
一、五月一〇日	四頁
二、七月一〇日	二頁
三、九月一〇日	四頁
四、十一月一〇日	二頁
五、一月一日	四頁
六、三月一〇日	二頁

●一般より投稿される原稿は右発行日の十日前に締切り致します

編集室

▼朝夕の北風はまだ寒い風が南にかわると春が甘い香をただよわせて、そゝと室にしのびこむ。厚着の衣類が一枚々々減つて行く野に山に石の下に青い芽が育くまれている。

朝倉周威翁の訃

目付の朝倉周威翁は老令のため長らく臥床中であつたが去る二月六日、八十三才の高令を以て逝去され自宅に於てしめやかに葬儀が行われた

翁は性剛直言論の雄として知られ村会議員、郡会議員、助役、村長代理等を長らく歴任され社会の為に貢献せられる処極めて大きく晩年は文字通し晴耕雨読、悠々自適していた。ちなみに翁を中心に大杉村年寄会を作つていたが、翁の逝去をいたみ会を代表して森末永氏、秋山正隆氏等よりそれ〴〵哀悼の意が表された。

▼巨杉も本号より印刷所を変えたのでこの春を期して大に活躍したいと存じます。

▼新年は村内での賀状を廃し巨杉紙上で名刺交換をする事になり印刷所と打合せの結果一月一日に配付する様手配していた処、印刷所の一方的都合で予定期日に発行できず大変御迷惑を御掛けしましたが右事情の通りに付、御諒承下さい

▼部落ニュースをさつぱり送つて頂けないがニュース班の方々何とか筆を仂らかして貰えないでしようか（正）

村民会議室

◇投稿歓迎
◇字数は500字以内
◇住所・氏名・明記のこと
◇紙上匿名は文えない

杉町内での自動車速力を制限せよ

杉、町内の道路は雨が降ると泥田状態になる。自動車が通ると窓ガラスはおろか、座敷にまでビシヤツと泥土が飛び込んで来る。シヤリを入れると窓ガラスが破損する町内だけでも舗装道路として貰いたいが実現は余程困難であろう、と云つて此の儘放置されては戸も開けられないし被害も多い。そこで之れが対策として、村で条例をこしらえて一定区間は自動車及其他の動力車の速力を制限して此の被害を守つてほしいものである。

他に取締法規があれば、適当な措置を急速にとつて頂き通行の安全と家屋への被害をすみやかになくする様、村当局の配意を望みたい。

杉。下田生

★出生と死亡★

出生（　）内は部落名

一月
西岡稔恵（仁尾ケ内）
秋山武士（穴内）
小笠原智子（日浦）
上村福己（津家）
島崎美恵（高須）
小笠原昭男（立川上名）
間嶋利幸（大王）
大坪勇栄（和田）
崎田一（谷）
美濃鋭子（大王）
小笠原耕一（大王）
岩戸富美子（杉）

二月
豊永美喜（津家）
吉川志奈子（立川下名）
合田冬子（立川上名）
杉本やよい（川口）
永野ミネ子（立川上名）
秋山悦子（穴内）
今井利津子（穴内）
川井末晴（立川下名）
秋波孝治（立川上名）
長田恵子（和田）

死亡
一月
原玉於（穴内）
小笠原昭男（立川上名）
久保梅（葛原）

二月
朝倉周威（和田）
酒井初次（大王）
小笠原奈津（大王）
秋山志毛（尾生）